

おはようございます。

全校集会のライブ配信は、これまで会議室からだったのですが、ライブ感を出すために今年はHR教室から行うことになりました。初回は3年3組ということで、このように目の前に生徒がおります。反応を見ながら話ができるというメリットがありますが、カメラ目線ではなくなるので、映像を見ているクラスでは少々他人事感が出てしまうかもしれません。何でもそうですが、まずはやってみることが大事ですから、やりながら修正していければいいと考えています。

今日は、私の話の後に、生徒会長のあいさつやクラス委員の任命式があります。入学式については、始業式でも話をしましたが、参加したのは生徒会長と吹奏楽部員だけでしたので、その話から始めます。

まず、新入生代表の11組古内寧々さん誓いの言葉では、「仲間がいることで味わえる楽しさ、悔しさが自分の原動力になります。その力は、私たちに挑戦する勇気を与えてくれます。しかし、どう頑張っても光が見えない時には、「なるようになる」と肩の力を抜いて、青春を楽しむことも大切です。」という言葉が印象に残りました。確かに、目標を高く掲げてそれに向けて邁進するというのはストレスがかかります。日常生活の中で何か楽しみを見つけて、それは自分なりの‘推し活’でもいいと思うのですが、ふっと息抜きできる場所を作っておくことは大事なような気がします。

そして、生徒会長の今野菜子さんは、歓迎の言葉として、嵐の「ファイトソング」という歌の「今は悩む事もあるでしょう、へこむ事だってあるでしょう、でも未来のどこかで君と笑い合えれば道は作られる」という一節を、なんと歌ってくれました。そして、「この歌のように、これから始まるみなさんの高校生活にもきっと、悩むことやへこむことがあるはずです。そんな時こそ、周りの友達や先生と関わることで、自分の考えが広がり、突破できていく。そして最後には笑い合うことができると思います。高校生活の中で、ぜひ、何事にもチャレンジし、自分の目標に向かって仲間とともに頑張ってもらいたいと思います。私たちと一緒に歩いていきましょう。」という言葉で締めくくりました。打合せをしたわけでもないのに、2人の話がリンクしていて、大変感動しました。

ここからは話の後半になります。春休みに東京の帝国劇場で『千と千尋の神隠し』の舞台を観てきました。映画が上映されたのは2001年ですから、もう23年前になります。日本での興行収入が『タイタニック』を抜いて1位になったり、アカデミー賞を受賞したりするなど、本当に有名な映画で、おそらく皆さんはビデオで観たのかなと思います。

それが帝国劇場で舞台化され、主演の千尋役は橋本環奈、上白石萌音、川栄李奈、福地桃子の4人が交互に務めました。実はその舞台に、私の教え子で奥山ばらば君という役者（舞踏家）が「頭」の役で出演するというので観に行きました。

元々彼は東北大学法学部を出たあと企業で働いていたのですが、大駱駝艦という舞踏集団の演技に魅せられ、会社を辞めてその劇団に飛び込んだという経歴を持ちます。8年前に独立し、数々の舞踏作品を発表し、映像や演劇作品にも役者として参加しています。東京五輪の開会式でも踊りました。役者ならば誰もが憧れる帝国劇場の舞台、しかも『千と千尋の神隠し』に役付きで出演するまでになり、これまで苦勞を重ねたと思うのですが、それだけに私も嬉しくて、楽しみにしておりました。

その日は3月29日で、乗り合わせた新幹線が強風のため福島駅で止まってしまうというアクシデントに遭いました。せっかく準備してもらったプラチナチケットなので、どうしても駆けつけたく、やきもきしながら動くのを待ちました。その間、福島駅から東京までタクシーで行ったらどれくらいかかるのかなと調べたりしたのですが、なんと30万円、金銭的にも時間的にも無理なので諦めました。そして待つこと1時間半、新幹線は何とか動き出して、運よく開演に間に合ったという次第です。いつもは早く着く新幹線を予約しておくことはないのですが、今回はそれが幸いしました。大事な時にはそれなりの準備が大切だということを実感しました。

千尋役は元AKB48で今は女優として大活躍の川栄李奈さんでしたが、本当に楽しい時間でした。そして、舞台に立つ教え子のばらば君を誇らしく感じました。舞台パンフレットにも、こんなに大きく掲載されています。山形県出身ではもう一人、安部萌（めぐみ）さんという女優さんも出演しています。

それで気づいたのですが、舞台に出演している役者の出身県を見ると、ばらば君のような地方出身者もいますが、東京や大阪、福岡など大都市出身者が圧倒的に多い。それは、人口を考えれば当然と思うかもしれませんが、ところが、日本人の大リーガーはこれまで72人いて、最も多いのはどこ出身だと思いますか？…東京が7人なのに対し、大阪府が13人もいるのです。

山形に生まれると、幼少のころにディズニーランドに連れて行ってもらい、特に女の子は夢の国で働きたいと思ったことのある人は多いでしょう。同じように、大阪は甲子園が身近な存在で、野球を始める子どもが多いわけです。つまり、気づかないうちに職業選択が環境と経験に左右されているということです。経験にはリアルとバーチャルの2つがありますが、リアルな体験はその後の人生に大きく左右するものです。ばらば君の今を思うと、何かを始めるのに遅いということは無のような気がします。大事なのはリアルな体験とチャレンジ精神、この2つです。

最後になりますが、1,148名という県内一の生徒会がスタートしましたが、挨拶と笑顔が溢れる楽しい学校にしましょう。